

が路政界から去らしめたことは、國家の損失と言つても過言ではない。

政變ある毎に事務官を更迭せしむることの可否は、こゝに筆するまでもなく世の識者が鑿鑿してゐるところであつて、政務と事務とを混同した遣り方であるばかりか、政黨者流の官界抑壓である。政友會にしても民政黨にしても、心ある人々は口でこそ言はないが、今日の此弊害を艾除することに心を悩ましてゐるであらうが、吾等の官界も亦獨自の立場に於て政黨者流に對抗すべく何等かの方途を講じ

なければならぬ時期に差迫つた。筆者は故のない清水君の轉任を見て更に其の感を深くする。

敬愛する清水君、吾等が計畫しつゝある對抗策に依つて、君が受けたやうな不快の念を、後人の爲に再び與えないやうに努力するであらう。行く先、静岡は氣候も可い自然に恵まれてゐる土地柄で、君の運動家には詭え向きの地だ、夫れに酒も良くアレも亦悪く無い筈だ、餘り泣かさすのも罪だが、茶切節でも稽古して時機の到來を俟つ自重が必要である。

道路に關することを

——福島國道就業労働者の生活状態に就て——

池 本 泰 兒

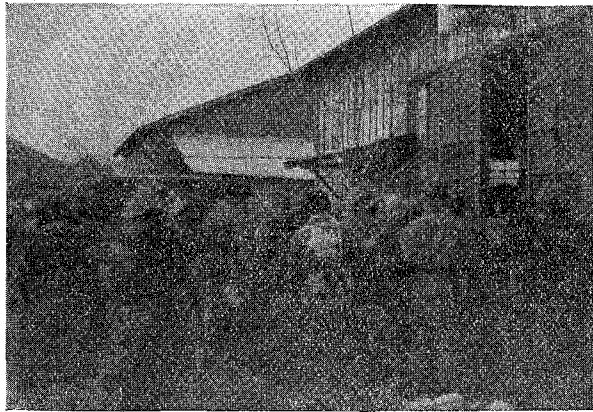
昭和七年度は土木工事を失業救済工事として施工しないと云ふ様なことが新聞にちよいちよい見える。澤山の土木

工事を起すとすれば、自然失業者が無くなるから、失業救済工事はする必要がないことになるのかも知れない。何れ

にしても、土木事業はしなければならぬ。道路工事は尙一層やらなければならぬ。日本の道路は未だく改修しなければならぬ處だらけである。

昭和六年度のは失業救済工事として道路工事が施工せられた。労働者を澤山に使用することは何處の工事でも全力を盡してやつてゐる。七年度には失業者はなくなると云はれてゐるが、私は六年度の道路工事は、大いに失業救済になつたと思つてゐる。又其處に働いて居る人を見て、如何に失業の深酷であるかも知つた。六年度の國道直轄工事では、實際普通土木工事で使用する場合の二倍乃至三倍の労働者を使役した。だから若し七年度に於て道路改良を失業救済でやらないとすれば、六年度の二三倍の工事を起さなければならぬ。尤も一般事業が盛んになつて其

の方に人手を要して、土木事業で救済しなくても良くならぬ。別であるが、私としては、六年度の失業救済事業は社會の狀態からしても非常に有意義なものであつたと思ふのである。



福島國道改良事務所日給支給の狀況

どの位失業者が苦しんで居たか、どの位之等の工事を喜んで居たかを今書いて見たい。夫れは福島國道改良事務所に於て調べられた、材料に依る。福島市、郡山市あたりで、之等の工事の初めには、どの位の失業者が居るものか、又そんなに困まつて居る人達が居るものかどうかを私は疑つてゐた。工事をすれば労働者は喜ぶのは當然で、其處に失業救済工事などをする必要があるのかとさ

へ思つて居た。だがこんど福島國道で調らべられたものを見て、其の工事がどんなに、彼等に有效であつたかを知つ

だ。福島でさへ、夫れなのであるから、日本全國で施工せられた失業救済工事が、どんなに昭和六年度に有效であつたかが想像出来る。

福島國道改良事務所で調査せられた方法は、本工事に働いた人に、申告させたのである。東北地方は、人が純朴であるから、之等の申告も集まつたのであるし、又申告が眞であることも信んじ得る。東北の人達の純朴である例を舉げて見るならば、宮城國道改良事務所の吉田橋架工事で其の取付道路の用地を買収した時に、事務所で評價した買収價格に依つて承諾を得るために日を決めて其の契約書に捺印すべく出頭せられたいと通知を出した。其の日に事務所では相當異論も出るだらうと覺悟もして居た處が、何等面倒も起らなかつた。出頭して來た人達は、先づ部屋に入る時お辭儀して、黙まつて机の前に来て、其の契約書に捺印して、再びお辭儀をして出て行つたさうである。其の間誰も一口も物を云はないで、順々に黙まつたまゝで済んださうである。岩手でも、秋田でも、用地買収に單價も、坪數も

表示せずに起工承諾書に捺印して、總て起工が出來たのである。之れ等を見ても福島に於ける申告は信じてよいと思はれる。又提出された申告書をも私は見たのであるが、たど／＼しい文字で、勢一杯で書いてある。

申告票には、住所、姓名を書かせて、『内務省の工事に従事した人に聞いて置きたいこと。左の欄に夫々有りの儘を書いて下さい』として、其の申告事項は

- 一 役場の納税が出來たこと
- 二 家賃とか或は電燈料を拂ひ得たこと
- 三 家族の病人を癒すことが出來たこと
- 四 休まして置いた子供を學校に出し得たこと
- 五 人の厄介にならないで暮すことが出來たこと
- 六 其の他のこと何んでも役に立つたこと
- 七 知合の人で困つて居るが此の工事に出來たら大變助かるだらうと思はれる人があつたら其の村と姓名と困る様子を書いて下さい。

の七項である。福島國道で働いた人は約千五百名あるが之

等の申告を出した人は約七百名である。今其の申告の二三のものを擧げて見る。

第一項 『役場の納税が出来たこと』の

問ひに對してのものには

○お蔭様で納税も滞りなく出来て嬉しく感謝して居ります。

○毎日の様に取りに來られ、僅かな金額であります、拂ふことが出来ませんでした、此の工事のお蔭で拂ふことが出来ました。

○納税と云へば昭和四年度から滞つて目下財産差し押さへの状態なり。納税金は六七圓位のところ。

○お蔭様で納税も幾分か納めました。

○納税は昨年度後期分未納の處今月支拂ひました。

○昨年の納税は未納の處、工事に従事してから五分一程納

めました。

○六十錢の日給では家内九人暮しをして納められません。

納めれば納められますが、食わずに納めが出来ません。

○納める事が出来ないので米屋の方を少し借りて縣税だけ納めて居りました。

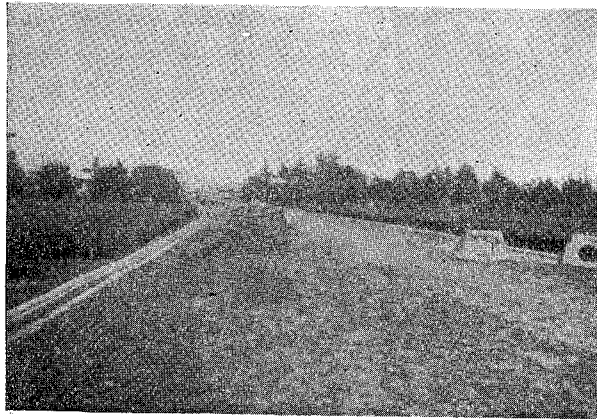
○免除されて居ります。

○役場納税は極めて小額ではあるが工事に従事したる故に延滞せず納付する事を得たり。

○昨年度の納税は今年の仕事の爲、容やく納めました。六年度の分は全部有

毎日の暮しに困まつて居ります。

以上のやうな答を得てゐる。福島縣地方ばかりでなく、



福島市瀬町四間國號改修工事

何處でも六年度の工事のあつた處では、税金の滞納が非常に少なくなつたと云ふことは聞いてゐた。又夫等の滞納が之れまで如何に多いものであるかも知れなされた。私は主として東北地方の工事を見て歩いてゐたのであるが、東北地方の疲弊は相當酷いものがある様だ。

今第一項の回答を統計にして見ると

納税したる者

二六六人

納税を爲し得ざる者

一四四人

免除者

三五人

義務なきもの

三一人

計

五七六人

申告書を出したものは七百餘人あるのだが空欄になつてゐるものは計算に入らないから計の數は色々違つて來る。次に第二項即ち『家賃とか或は電氣料を拂ひ得たこと』と云ふのに對する回答には、

○電燈料も差し支へなく拂ひ得たことを喜んで居ります。

○今までの職業より離れ、家賃及び電燈料三ヶ月分たまり

其の日の食事にも困りましたが、此の工事のために助かりました。

○昨年來電燈送電中止されたが、工事に従事してから點火した。

○數ヶ月の電燈料が滞納になつてゐましたが、お蔭様で餘す處二ヶ月になりました。

○電燈は餘りに經濟も採れませんので、取付間もなく斷線して、只今は石油を使用してゐます。家賃等は食つての餘りで支拂ひます。

○燈りはランプにしました。家賃は手金を入れました。

○家賃は七ヶ月も滞つて居りますが家賃の方には向ひません。ランプをつけて居ります。電氣などを用ひません。

○家賃は半分拂ひました。ランプをつけて居ります。

○電燈は點する事を得ず。ランプにて石油を用ふ。之れとても何とか間に合はすことを得たり。

○家賃は納めます。電燈料は高いから石油で居ります。

○食ふことはかりに追はれて家賃もだいたい滞つて居ります

電燈もつける事が出来ず石油ランプをつけて居ります。

○家では電燈でなく、ランプを使用して居りますが、毎晩明るくつけて居ります。

何んとランプをつけて居る者が多いことだらう。之れが山のなかとか何んかなら、電燈がないのかも知れないのだが福島市とか郡山市の附近なのだから驚くではないか。

今之れ等の回答を統計にして見ると

- 家賃を拂ひ得たる者 二五八人
- 家賃を拂ひ得ざる者 一五二人
- 電燈料を拂ひ得たる者 二三五人
- 電燈料を拂ひ得ざる者 九七人
- 電燈を用ひざるもの 一三二人
- 義務なき者 七六人

計 七九二人

第三項『家族の病ひを癒すことが出来たこと』に就ては

○家族に病氣としては無いが子供五人の處に妻が妊娠八ヶ月なれば目下慘たんに苦しむ。

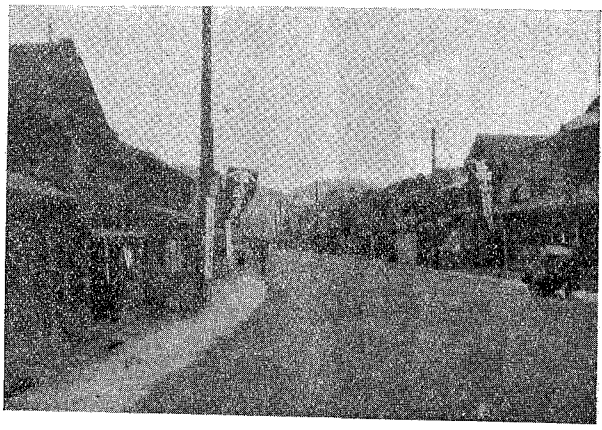
○母の少々の病氣も安心して丈夫になる事が出来ました。

○母が病氣で居りますがなか／＼醫者に掛けられません。

○兄さんが脊髄で永らく休んで居ります。一切食物を買つた他に薬を買つて兄様に差し上げます。

○一月ばかり子供の病氣も醫者にかゝりなほりました。醫者代丸と上げられませんが、お蔭様で半分上げる事が出来ました。

○工事従事中子供が肺炎に冒かされ一回だけ醫者の診察を受けて、それを癒すことが出来ました。



福島市四國道舗装竣工の状況

○姉の病氣も二月程かゝりました、僕の働きでは足りない

位でありましたが、姉は遠い遠い冷たい國に行きました。

○今年七月父が風を引いて熱で困まつてゐました。私が工事に出て働いた二日分のお金が溜まつて居たので、夫れで薬を買つて吞ませたら癒りました。

○七十九歳のお祖父さんが目が悪いので困まつて居りましたが、工事に私が出てからは、良い薬を買つて差し上げて居ります。未だ癒りませんが餘程良いと喜んで居ります。

○妻が永らく座骨神經痛をわすらつて居りますが生活難のため醫療を爲す能わず、それでも工事に出て居りますため時折灸だけの治療を受けることが出來ます。

之等のものを統計にして見ると

家族の病氣加療に資したる者 九五人

爲し得ざる者 五六人

病人無き者 三九五

計 四七六

第四項『休まして置いた子供を學校に出し得たこと』と云

ふ分に對しての回答には、

○家内は七人ですが學校へ三人出して居ります。夫れもやつと通學させて居るばかりです。

○昨年は暮に困まつて學校も九ヶ月休ませましたが、今年には休ませません。

○之れまで度々子供に休學させてゐたが、この工事に従事してからはずつと通學させてゐる。

○父上が東京へ行つて少しばかりの金をとり、夫れで學校へ出してゐる。

○半年休ましてゐたが今では出して居ります。

○工事に死ぬ前よりは日數多く學校へ出すことが出來ます

○子供を學校へ出して居ても、毎日の學用品も與へる事が出來ずにゐましたが、仕事が出来て使つて下さるため、少々宛與へる事が出來ます。

○學校に出す事が出來ず、他家に子守に貸しました。其の家から學校に出して貰つて居ります。

○學校には二人通學させて居ります。四學年と二學年とです。上の子供には晝飯を持たせてやれなかつたのですがお

陰様にて此頃は晝飯を持たせてやる事が出来るやうになりました。

○お陰様にて學校道具が買つてやれる様になりました。

○高等科へ行つてゐる子供が一人あります、家中の何事を置いても之れだけは卒業させたいと思つて居ります。

今之れ等のものを統計にして見るならば

休校せしめし児童を復校せしめし者

二一人

休校せしめざりし者

一四〇人

學用品其の他を供し得し者

二五人

通學児童と有せざる者

二七一人

其の義務なき者

一二人

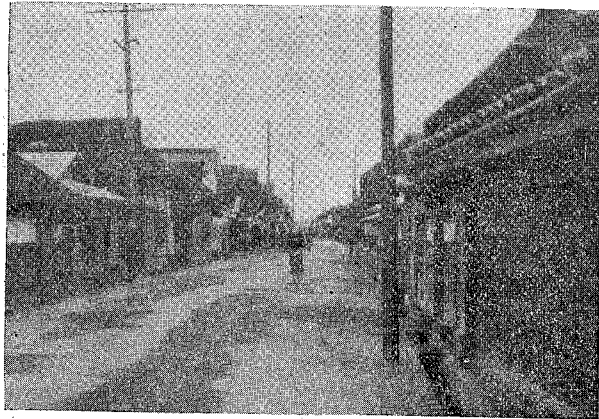
就學せしめ得ざる者

七人

計

四七六人

漫 録



郡山四市號國道鋪裝竣工の状況

第五項『人の厄介にならないで暮すことが出来たこと』に就ての回答には次の様なものがある。人の厄介になると云ふ

意味は、扶助を受ける。借金してやつて行くといふ意味である。

○家中で食ふ米も他所から借りず、少々ながら買つて来て食つて來られました。其の他醬油、鹽、たばこ等の小遣ひに不自由しません。

○前日の給料を持つて居るから人の厄介にならずに暮せます。

○商店借も少し拂ひました。

○米は本家から貸りて食つてゐましたが今では自分で買つて食べられるやうになりました。

○一人働きに老年故に工事に従事する迄は大分苦痛を感じて居りましたが、丁度折りよく採用

されました今日迄を暮して來られました。

○日々の生活は毎日働いて頂く金で間に合せて居ります。

○稼ぎに出る前は人様に厄介になつて居りました。今度この工事に就きまして大助りで内の者は皆喜んで居ります。

○家内あまたで米代だけは助かつて居ります。天氣が續けば、働けるから間には味噌も少し買ひます。

○人の厄介にならないなどと云ふわけにはゆきませんが、この工事があつたため去年より大層助かりました。つまづきなく米麥を買ふ事が出来ました。

○工事に出るため昨年などより暮し込みの借金は少なくなつて行けますが相變らず、生活のための借金は惱みの種です。失業で困まつて居たのに工事に使つて頂くだけ、精神的にも救はれて居ります。

○年はとり、失業のため隣近所より度々食物のお世話になつて居りましたが漸く工事に従事したおかげで自ら暮らす事が出来ました。

○今度の工事に私の様な力ない者をお遣ひ下さいまして、私も工事前までは納豆賣りをして其の日を送つて居りました。

たが今は仕事にありついて有難くお禮申し上げます。

之れを統計にしたものを擧げれば

生活上他人の扶助的行爲を避け得たる者 二四六人

扶助的行爲を元より受けざりし者 一五八人

生活上他人の扶助的行爲を避け得ざる者 七二人

計

四七六人

第六項『其の他何んでも役に立つたこと』といふのに就ての回答には

○主に日雇ひを業として居りましたが農村疲弊の今日、つかつて呉れる人はなし、どうして妻子を養ふかと思案に暮れて居りました處、幸ひにも働かせて頂いたので全く大助りを致しました。厚くお禮申し上げます。

○此の冬の薪、木炭を買ふつもりで毎日十錢宛別に置しました。

○妻の病に牛乳を十日程吞ませる事の出来たことは私には此の工事に助け頂いたも同じであります。

○日常の食料たる米を買ふ事が出来たのが第一の助りです

○役にたつたのは米であります。

○一番よいのでは御米ありました。

○納税に滞りなく學校に通學させるに紙代やら寄附金と、子供等に云はれた時人様の厄介にならず持參させることが出来ました。

○米麥代其他に役立てました。

第七項『知合の人で困まつて居るが此の工事にしたら大變に助かるだらうと思はれる人があつたら、其の村と姓名と困まる事を書いて下さい』と云ふのに對する回答としては

○私の隣家に誠に困つてゐる一家があります。家内四人で父は三十年來の病氣で何等の仕事も出来ず、母は先年婦人病にて之れまた働き得ず、それに九歳になる子供がありそれを若者一人があちこち拾ひ仕事でやうやう食ふか食はずの有様です。清水村の人は永年病氣で他人には見はなされ、田も小作をして居たが取り上げられてゐたのを、此の工事に出てから子供四人、六人家内其の日を暮してゐる。この工事に手を合せて祈つてゐます。

○清水村のは無財産に等しいなかに、弟妹多く一人の妹は骨膜炎で通院も出来ず床に伏してゐます。

○陸合村のは日雇を業として居ますが、毎日仕事がなくて困つて居ります。夫れに妻は體が弱くて働く事が出来ず、其の日の生活にも困まつて居ります。幾日前に福島の職業紹介所に行つてお願ひしたら使用の時は葉書を出すからと云はれたさうだが未だ便りがないさうです。此の人など、工事にしたら大變助かるだらうと思ひます。

○私は朝夕見て居りますが桑折町の は、何云ふも一人働きで家内七人を食はすのでありますから、雨でも降れば休みになるので米代にも困まることあります。子供は十一歳がかしらで、抱き子まで五人あります。其のうち三人は學校であります。

以上の様なものである。一日六十錢乃至八十錢の收入で數人の家族を養ふとすれば米代だけであらう。米代の得られることを真心から喜んで居るのを見てもいぢらしい氣がする。又自分も困つてゐるであらうに隣人の貧困を救つて

やらうとする友情にも打たれるではないか。繰り返へして云ふ。昭和六年度の直轄國道改良工事は、失業救済として

は大成功であつたと思ふ。勿論土木工事としての道路工事もしてもこの年は實際劃期的なものであつたと思ふ。

道路工事雜感

楠 宗 道

一 路 線 形

道路法に謂ふ所の甲乙二地點を連結する路線は、一線しか認められない様であるが、技術上から是れが建設改良に際して、選定せらる可き候補路線は幾條もあるのが常態である。甲乙二地點が短距離の場合であつても、其の間に山や川があつたり、部落や鐵道がある場合には、建設費は無論の事交通の安全、輸送能力、利用價值乃至は道路の維持管理等の諸點から考へて、是れが唯一無二の線であると斷定される迄には、可なりの測量調査によるの研究がいる筈である。然るに多くの場合には、割合に是れが簡単に片付けられて居る様である。例せば

測量技手の單なる考に一任されて餘り考慮を拂はない事 政黨的の動きにより彼等の地盤關係から決定せられる事 地方民の請願による事

等は其の重なるものである。大にしては、路線か山脈の何れの峠を通過するか、川の左右岸何れにするか、部落に道よりをするか、一直線に行くか、小にしては、中心線を一米左するか或は右するかによつて、道路本來のを使命を全ふするか否か乃至建設費、維持費に重大なる影響を齎らすものである。而して是等によつて得る利益は、比較線の測量調査費の小額なるものに對して、無論多大なるものがある事は明了である。局に當るものは豫め是れが測量設計